

日本安全保障・危機管理学会

設立20周年記念

第72回セミナー 令和6年5月14日

日本人が知るべき 親日の歴史

親日観は日本のソフトパワー、安全保障の重要ファクター

越 純一郎(こしじゅんいちろう)

日本安全保障・危機管理学会 会員

せおん経営塾/せおん不動産金融塾 主宰

株式会社テイク・グッド・ケア 代表取締役

koshi@seon-inc.com

本日の講演の構成

第1部 親日観とソフトパワー

第2部 ポーランドの新日観

第3部 インドネシアの親日観

第4部 外交・安全保障と親日観

注 本日は、時間制約のため左記2カ国を扱いますが、本来は次の諸国も扱うべきです

ベルギー フィンランド
イラン 台湾 トルコ
ベトナム パラオ タイ
スリランカ その他

第1部 親日観とソフトパワー

本日の2つのセミナーの対比

坂梨弘明様

ハードパワーの分野からの御講演

ハードパワー(アメとムチという手段による)

軍事力/経済力などによる
強制/脅し/買収によって、
望ましい状況を実現する能力

越 純一郎

ソフトパワーの分野からの講演

ソフトパワー(アメとムチでない手段による)

魅力によって影響を及ぼし、
相手から望ましい結果を引き
出す能力(ジョセフ・ナイ)

即ち、**ソフトパワー**とは；

強制的(ムチ)や利益供与的(アメ)ではなく、「相手からの**感謝/尊敬/憧憬**」や
「**政策の合理性/道義性、価値観に関する共感**等による感化力/影響力」。

要は、「**相手が日本を好きなので、日本にとって好ましい展開になる**」というもので、
この意味では、**親日国/親日観こそ、最も典型的で重要なソフトパワー**である。

日本におけるソフトパワー研究

日本のソフトパワー研究は不活発

1. 論文がほとんどない。
2. 親日国/親日観をソフトパワーとして論じた例は見当たらない。
3. 浅薄な議論が横行していることも：
日本のソフトパワーの主たる源泉は、「アニメ」や「ODA」だとする笑止な例は多い。
4. 新日観の源は、次の2つです。
 - ・ **歴史的**理由
 - ・ 日本人の **Integrity** (徳性)

実証研究やケース・スタディの蓄積がない

台湾、ポーランド、インドネシア、ベルギー、フィンランド、トルコ、ベトナム、パラオ、マレーシア、ブラジル、イラン等の各親日国に**歴史的**理由があり、「**ドラマ**」もある。

しかし、日本のソフトパワーの源泉として、
「シベリアのポーランド孤児救出」
「台湾の八田與一による烏山頭ダム」
「日本の勇戦によるアジア諸国の独立」
等の歴史を知る日本人は少ない。

だが、日本人の多くが歴史に無関心であっても、**相手国にとって重要な事項**があるのです！

一般理論の構築よりも、まず実証研究が必要。

→「**知る努力、知らせる努力**」

第2部

ポーランドの 親日観



ポーランドは、たいへんな親日国です

日本の 外務省の HPによれば

- ポーランドの国立4大学の日本語専攻の定員は 600人。
- その他に約 60の機関や学校で日本語を学ぶ定員は約 4,500人
- 国中で日本語弁論大会が盛ん
- 日本の武道も盛んで、特に空手は同国で6番目の人気スポーツ

2018年のワルシャワ大学の日本語専攻の入試の倍率は 27倍と、超難関

ワルシャワでは、日本人の数よりも和食店の数のほうが多いと、現地の人々よく言います。

- ワルシャワの国立歌劇場で、唯一の常任指揮者に、日本人の今村能氏を招いたことも。
- 日本のポーランド大使館の外交官の多くは日本語が堪能
- 英国留学中の日本人(数学専攻)に、ポーランド人教師が、
「自分は親から『世界のどこかで日本人に会ったら、できるだけ親切にして、恩返しをしてほしい』と言われて育った」
と親身になって世話をしてくれたという逸話もあります。
- 同様の話は少なくないようです。

ポーランド ほどの親日国は少ない(続)

2011年3月の東日本大震災直後のポーランド国会では、討論に先だち、「日本の地震と津波の犠牲者への追悼のために全議員が起立して黙祷」
続いて「日本国民への連帯の表明を全会一致で採択」。



<https://larciatoja.blog.fc2.com/blog-category-13.html#entry2179>

こうしたことの歴史的背景は、100年以上も前にさかのぼります。

ポーランド 日露戦争

ポーランドの誇り高い国民性

1795年、第3次ポーランド分割 (by露普墺)
⇒ポーランドは国家・国土を喪失
(独立は、1918年)

1904年 日露開戦

→ 直ちに、ヨセフ・ピウスツキ元帥 (後の初代国家元首) が訪日。
これは同国で良く知られている史実

(ちなみに、同元帥の実兄 ブロニスワフ・ピウスツキはアイヌの日本女性と結婚し、子孫は日本にお住まいです。)

日露戦争の日本の勝利

アジアの無名の小国「日本」が、
ヨーロッパ最強の陸軍国ロシアを破り、
バルチック艦隊は壊滅する一方で、
日本の聯合艦隊は無傷に近く、
日本の圧倒的な勝利。

ポーランドは歓喜！

フィンランドも、アジアも、、、
ネルーもガンジーも、孫文も毛沢東も、
トルコの国父ケマル・アタチュルクも、
ベトナムのファン・ボイ・チャウも。

ポーランド 日露戦争(続)

日露戦争のポーランド人捕虜

日露戦争で捕虜となったロシア軍には、多くのポーランド人兵士も含まれていました。

日本は、ポーランド側の要請を受けて、ポーランド人捕虜をロシア人捕虜とは切り離し、愛媛県松山市内15か所の収容施設(1904年3月に設置)で、1906年2月の閉所まで、手厚く待遇しました。

「外出もかなり自由で、地元から心温まるもてなしを受けた」と伝える文献も。

ポーランドは、 日露戦役の日本軍将校を叙勲

1925年、初代国家元首となっていたピウスツキ元帥は、日露戦争で功績のあった日本軍将校の叙勲を提案しました。

そして、1928年、ポーランドの在日武官のヴァツワフ・イエンジェイエヴィッチによって授与が行なわれました。

帝政ロシアを破った日本人に対するポーランド人の好感情は今日まで続いてますが、その背景には、こうしたこともあります。

ポーランド 独立 ⇒ 日本が承認

1918年、ロシア革命に乗じて
ポーランド独立

その僅か数か月後の1919年3月22日、
アジアの国として初めて、
日本がポーランド独立を承認

同年、ワルシャワ大学に、日本語科が
設置されました。

つまり、2019年が国交100周年でした。

同年、即位の礼に参列するために
来日されたドウダ大統領夫人は、
「100年前、アジアの国として
最初に、日本がポーランドの
独立を承認してくれた」
と、歴史を踏まえたスピーチをされ
ました。

翻って我々が両国史に
無知ではいけません

ポーランド シベリア孤児救出

国交樹立の翌年、まだ外交使節の交換すらしていない1920年のことでした……

シベリアに流刑されていたポーランドの独立運動の志士・家族は15～20万人。

腸チフスの流行等で、

1000人ものポーランド人の子供が孤児に

ポーランド側はシベリア出兵中の英米仏伊加中に救出要請 → 全て拒否される

最後に要請を受けた日本は、17日後に、「**帝国陸軍と日本赤十字で救出する**」旨を回答！

数次に亘り、計765人の孤児を日本に救出

(日本赤十字は、子供向け漫画「ポーランド孤児を救った日本赤十字社」(ポプラ社)を刊行しています)



シベリア孤児と日本人看護婦(福田会、1922年)

「日本ポーランド関係史」(彩流社刊)P90

ポーランド シベリア孤児救出(続)

日本は朝野を挙げて温かく迎え、慰問品や寄贈金も次々と贈られ、**貞明皇后**から4回にわたり資金が下賜されました。

孤児の**全員が日本の船で母国に帰還**しました。

ポーランド政府は、1925年、孤児を救った51名の日本軍将校に対し、ヴィルトウティ・ミリターリ勲章を授与しました。

阪神淡路大震災後の1996年、被災児30名がポーランドに招かれ、各地で歓待を受けました。帰国前のパーティーには、75年前にシベリアから救出された孤児4名が出席していて、日本の震災孤児の一人一人にバラの花を渡しました。

その時、会場は万雷の拍手に包まれました。

これを伝える**兵頭長雄**元ポーランド大使の「シベリアからの奇跡の救出劇」(『歴史街道』2014/3)を紹介するサイトは、「シベリア孤児を慈しんだ大和心に、恩を決して忘れないポーランド魂がお返しをしたのである」と結んでいます。

2018年に、ポーランドでは「**シベリア孤児記念小学校**」が開校しました。

<https://siberianchildren.pl/2020/06/12/elementaryschool-jp/>

(日本語のサイトもあります)

公立学校ですが、1年生から日本の文化と日本語を学び、君が代も習います。



しかし、、、

兵藤長雄 元駐ポーランド日本大使も
外務省入省から42年後の1993年に、
57歳でワルシャワに赴任するまで、
「シベリア孤児 救出」については、
ご存じなかったそうです。。。

上記は兵頭薫夫人の手記による

<https://siberianchildren.pl/2022/04/12/mrs-hyodo-jp/>

兵藤長雄

1936年生まれ。1961年東京大学法学部卒業と
同時に外務省入省

ソ連の専門家として、英国・ソ連でロシア語等を
3年間研修

その後、モスクワに2回勤務

ロンドン、マニラ、ワシントン等にも勤務

1990年から1993年まで欧亜局長の後、

1997年4月まで4年間ポーランド大使を務める。

著書に『善意の架け橋—ポーランド魂とやまと心』(文藝春秋社、1998年)

ポーランド ユダヤ人に「命のビザ」

「東洋のシンドラ」杉原千畝

ポーランド大使館では、
リアニア副領事だった
杉原千畝の資料を展示
することがあります。



杉原千畝が命のビザで
救ったユダヤ人の多くは、
ポーランドの国籍でした。

その子孫は、現在25万人。

2008年、ポーランド政府は
杉原千畝に対して
ポーランド復興勲章を授与しました。

バトンをつないだ根井三郎(外交官)

(日露協会学校で、杉原の2年後輩)

杉原千畝の命のビザでウラジオストクに逃れ
てきたユダヤ難民に、外務省訓令に反して、
日本行の船への乗船を許可しました。
出身地の宮崎で、近年、顕彰活動が開始。

樋口季一郎(陸軍少将<当時>)

駐在武官としてポーランドに赴任(1925)。

シベリア鉄道で満ソ国境まで来たユダヤ
難民が満州経由で上海に逃れる「ヒグチ・
ルート」によって、数万人を救出しました。
尚、樋口季一郎がいなかったら、北海道の北半分は
ソ連に奪われていました。これも忘れてはなりません。

ポーランド 大統領演説に国民が喝采

第2代大統領レフ・ワレサ氏(まだご存命)
(言語読みの発音は、レフ・ヴェウエンサ)

1990年の就任に際して、
「ポーランドを
第二の日本にする」
と演説。国民は、
これに喝采(!)しました。



ワレサ政権のバルセロビッチ財務大臣は、
天才的手腕で経済改革を断行しました。
それに先立ち、日本の戦後の経済復興の
方法を調査・研究するために日本に出張し、
日本興業銀行などを訪問しています。

というのは;

戦後、ポーランドはスターリンに支配され、
日本はマッカーサーに占領されました。

しかし日本は**原爆**のハンディにもかかわらず
戦後19年にして**東京オリンピック**を実現!

さらに、15年後、ハーバード大学のエズラ・
ボーゲル教授が「**ジャパン・アズ・ナンバーワン**」
を出版!

このような**日本の戦後復興の成功物語**は、
共産体制終了後にテイク・オフを目指す
ポーランドにとっては、
驚異の目で見える成功モデルだったでしょう。

高度経済成長!

ポーランド 恩を忘れない国民

日露戦争、シベリア孤児の救出など、常にポーランド側であった日本に対し

**ポーランド人は
恩を忘れない
国民である**

と語ったのは、1995年にワルシャワの日本大使館を訪れた、8人のシベリアから救出された孤児の方々でした。8人は、感涙に咽びながら、アルバムを見せたり、日本でもらった扇子を**肌身離さず**持っていたことなどを話したそうです。

阪神淡路大震災後(1996年)、被災児30名がポーランドに招かれ、各地で歓待を受けました。

帰国前パーティーには、75年前にシベリアから救出されたポーランド孤児4名が出席し、震災孤児一人一人にバラの花を渡した時、

万雷の拍手

これについて兵頭長雄元ポーランド大使は「シベリア孤児を慈しんだ大和心に、恩を決して忘れないポーランド魂がお返しをした」と述べています。

「恩を忘れないポーランド」に対して
「歴史を忘れない日本」でありたい



第3部 インドネシアの 親日観

令和2年10月21日 菅総理大臣は、初の外国訪問であるインドネシアの
カリバタ英雄墓地で献花を行った(写真提供:内閣広報室)。

インドネシア各地の英雄墓地には、
インドネシア独立戦争に殉じた日本兵たちが、多数眠っている。

インドネシアの親日観

(1) インドネシアの歴史教科書では、
1942年に侵攻してきた日本軍を
「解放軍」と呼んでいる理由

(2) 親日の重要な根源
日本の経済発展
日本人の **Integrity**

(3) アジアを思う日本の心

(4) 親日観は、「現代的課題」と共に

(1) インドネシアの歴史教科書では、
1942年に侵攻してきた日本軍を
「解放軍」と呼んでいる理由

インドネシア

日本による植民地解放

350年のオランダの植民地支配から
インドネシアを日本が解放

1941年12月8日
真珠湾攻撃

12月10日
オランダの対日宣戦布告

1942年2月
日本軍のインドネシア侵攻開始

2月14日、パレンバン空挺作戦
「空の神兵」が製油所を無傷確保

3月12日
オランダ軍の全面降伏

インドネシアは
日本の軍政に移行

軟禁中の民族主義活動家を解放
スカルノ(初代大統領)
ハッタ(初代副大統領)

禁止されていた「インドネシア」という
呼称の使用を解禁

インドネシア語を初めて公用語に

インドネシア

日本の軍政

インドネシアの覚醒

- 日本の勇戦を見たインドネシアの人々は「アジア人は劣っていない」「自分たちにも独立する力がある」とアジア人としての自信を獲得しました。
- 後に独立宣言をラジオ放送したユスフ・ロノディプロ氏（後年は、各国大使を歴任）
日本だけがアジアを支配する白人に立ち向かった。真珠湾攻撃をアジア人として誇らしく思い、自分自身の中の強さを感じた。アジアは劣っていないと思った。
- 軍政下、インドネシア人は**戦う精神**も獲得！
(暴力的憲兵、食糧不足、日本の軍政に対する反乱等もあったが)
現在も、インドネシアは親日家が多数

インドネシアの歴史教育

- 同国の小学校から高校までの、全ての**歴史教科書**で、インドネシア独立のためにいかに日本が貢献したかを丁寧に説明しています
- 特に、日本軍政が残した「①教育システム」「②軍事組織」「③行政機構」が、国家建設の基盤となったことも説明しています。
- 「日本への感謝、尊敬が続いている」
(インドネシア人の在日実業家のアリ・ウイド氏)
「日本の侵攻がなかったら独立は遅れた」「いや不可能だった」という声は今も多いのです。

日本はどうでしょうか。

国民にそうした歴史認識はあるでしょうか。

インドネシア 日本の軍政下での独立への流れ

1943年10月、日本軍政下で

郷土防衛義勇(PETA)創設

インドネシア人の将校が率いる民族軍

ここで養成された軍事力が、独立戦争の中核戦力に。



郷土防衛義勇軍旗



- 1944年9月3日、「**小磯声明**」
インドネシアの将来的な独立を認容
- 1945年3月、「**独立準備調査会**」発足
スカルノやハッタが独立後の憲法の内容を審議
- 1945年8月7日、「**独立準備委員会**」発足
主席はスカルノ
- 1945年8月18日、「**インドネシア憲法施行**」。
その経過規定である第2条は、日本軍政期の制度は引き続き有効と規定

インドネシア独立戦争と日本

- インドネシア独立戦争では大量の日本の武器が使われ、また数千人の旧日本兵が共に戦いました。
- その多くは、今も、**英雄墓地**で、インドネシア人たちと一緒に眠っています。
- インドネシア**独立記念日は8月17日**です。毎年、その頃に、インドネシアの新聞(特に、ジャカルタポスト)は、独立戦争をともに戦った日本将兵に関する記事を掲載しています。

インドネシア独立のために戦った日本人オノ・シゲルさんが、95歳で亡くなったことを伝えるジャカルタポストのサイト(2014/8/27)



The screenshot shows the top portion of a news article on the Jakarta Post website. At the top left is a red 'SUBSCRIBE' button. The site's logo, 'The Jakarta Post', is in the center, with a small icon of a person. Below the logo is a navigation bar with links for 'INDONESIA', 'ELECTION 2024', 'BUSINESS', 'WORLD', 'OPINION', 'CULTURE', 'DEEPDIVE', and 'FRONT ROW'. The article's category is 'LIFE • LIFESTYLE'. The main headline reads 'In Memoriam: Japanese who fought for Indonesia dies at 95'. Below the headline is a sub-headline: 'Rachmad Shigeru Ono: The decorated veteran of Indonesia's Independence War before his death'. At the bottom, it says 'Indra Harsaputra (The Jakarta Post)' and 'Malang, East Java • Wed, August 27, 2014'.

インドネシア 独立宣言 2605年8月17日

インドネシア独立宣言の年号は
日本の年号で刻まれています

- 日本の敗戦の2日後、スカルノとハッタが署名した独立宣言を、スカルノが自宅前で発表。
- その日付は「17 08 05」
「05」とは、皇紀2605年
- ジャカルタのムルデカ広場(=「独立広場」)に立つ、独立戦争の国民的英雄スディルマン将軍の銅像の台座に刻まれている年号も同じです。

インドネシア独立宣言

初代大統領スカルノと、
初代副大統領ハッタが署名しています。



インドネシア

スディルマン将軍像 献花式

- 2011年1月、プルノモ国防大臣より防衛省に対し、日本の教育訓練を受けたインドネシア独立の国民的英雄 スディルマン将軍の銅像が寄贈されました。(防衛省HPより)
- この銅像は防衛省内の東京裁判のあった建物をにらみつける場所に設置されています。
- 独立記念日の8月17日に行われる献花式には、**インドネシア大使が自ら参加**されています
(大使の代理ではなく)。



(2) 親日の重要な根源

日本の経済力/経済発展

日本人のIntegrity

この2つは、インドネシアだけでなく
いかなる親日国においても
親日観の重要な根源になっています。

親日性の重要な根源

日本の経済力/経済発展

- 確かに日本の勇戦なくしては、アジア諸国の独立は、大幅に遅れたか、或は不可能だったと認識されています。
- それでも、アジア諸国の首脳たちには、次のように言う方々が多いらしいです。

**日本のアジアに対する
最大の貢献は
戦後の日本経済の発展である**

なぜでしょうか？

- 日本の高度経済成長は、**経済力**に関する白人支配を覆し、「アジア人でもできる」と実証しました。
- また、日本経済の高度成長は、アジア諸国にも恩恵をもたらしました。

外交交渉等での発言力も、基本的に、**経済力の裏付**あつてのことです。

親日性の重要な根源

日本人のIntegrity

どの国でも、親日観の根底には、次のような日本人の徳性に関する理解と評価があります。

- 約束を守る
- 高潔
- 誠実
- 礼節
- 清廉
- 責任感
- 礼儀正しい
- 信頼できる
- 規律正しい
- 世のため人のため

徳性は英語では、Integrity。

Integrityとは、
道徳的、人格的に信頼できる徳性

- どれほど日本からのODA等があっても、Integrityが無ければ、諸国からの感謝や尊敬はあり得ません。
- その意味でも、日本人は、親日国の人々に見られて、恥ずかしい姿であってはなりません(歴史を忘れないことを含めて)

(3) アジアを思う日本の心

かつて、日本には、アジアを思う心と理想がありました。

これは、多くのアジア諸国の親日観の源になっています。

インドネシアについても、同じです。

インドネシア 興亜主義 相手国への敬意

興亜主義

日本には、「アジア解放の理想」とか、「興亜主義」などが、かつてありました。

我が国の先人たちには
アジアの方々への思いがあり、
対等、相互尊敬の基礎があったのです。

(これを右翼危険思想くらいにしか認識していないような不勉強ではいけません)

相手国への敬意

戦時中に南方特別留学生等として
日本で学んだインドネシアの方々の
下記のような発言が多数(別資料参照)

「私たちは敬意をもって扱われた」

「非常に良い歓迎を受けた」

「差別などなかった」

「嫌な思いなどしたことはなかった」

多くの留学生が日本女性と結婚

翻って、現在の日本人はどうか！？

アジアの方々に対して、(無意識に、自然に)相互尊敬の気持を持って接しているか？

インドネシア

バリ島の父(パパバリ)

三浦襄

三浦襄 (1888～1945)

神田出身の熱心なクリスチャン
若くしてインドネシアで実業家に
孤児の養育も

「人を愛し、正義を貫く人」(長洋弘)

「親切で毅然。一度で胸に焼き付く人」

アジア民族解放の理想に共鳴し、
海軍民生部の現地顧問に就任

軍政に対し、道路税/自転車税廃止や、
バリ人の登用を進言



(4) 親日観は、現代的課題と共に

親日国との歴史は、
必ず「現代的課題」と共に
考える必要があります。

つまり、
新しい時代には、
新しい努力が必要です。

インドネシア

新しい時代には新しい努力を

70年代の日貨排斥運動の影響は既に無し

今日、これをインドネシア人は思い出すこともなくなっています。心配ありません。

新幹線は中国に発注しましたが、不調でした

中国を選んだことは失敗だったと
インドネシア人は思うに至っています。

一方、日本が関与した
ジャカルタ地下鉄は大成功

日本の技術、円借款で建設。

10万人/日が利用。

定時運行率はほぼ100%。

渋滞解消と経済振興に大きな貢献

→ 日本の評価アップ



インドネシア

新しい時代には新しい努力を



菅ジョコ会談(2020年10月)

菅首相は、初の外国訪問の際に、
ジョコ・ウイド大統領と会談

中国囲網を意識した内容

新幹線に関する日本の協力や共同
軍事演習などが、実施されるであろ
うと考えられていました。

しかし、今後、インドネシアが常に日本を
自動的に、無条件で、「戦略的パート
ナー」とすることなど、**ありえません。**

インドネシアは、政権ごとに、戦略的
パートナーを選定するのです(次頁へ)。³⁵

インドネシアの戦略的パートナーの変遷

インドネシアでは、
政権ごとに戦略的パートナーを選定

スカルノ(初代)1945-66

- 戦略的パートナーは旧ソ連
- これは、独立戦争の相手が西側連合軍(英蘭)だったことに対する反動

スハルト(第2代)1967-98

- 戦略的パートナーはアメリカ

メガワティ(第5代)2001-03

- 初代大統領スカルノの長女
- 戦略的パートナーは、中国



第4部 外交・安全保障と親日観

— 浅いレベルの親日ごっこを超えて —

親日観/親日国を**ソフトパワー**として位置付け、それを外交・安全保障の**実務に生かす実例**として、下記2例を説明します。

これらは、実務例であるとともに、御提案でもあります。

(1) 日本人の**Integrity** — 親日性の真の源

(2) **Advanced Bridging Diplomacy**

(高度「橋渡し」外交)

(1) 日本人のIntegrity — 親日性の真の源

「親日観の源」「日本のソフトパワーの源」として最も重要なのは、日本人の**Integrity**(徳性)であることに気づくべきです。

Integrityとは;

日本人は誠実で、約束を守り、礼節と正義を重んじ
誠実、清廉、礼儀正しく、規律正しく、高潔

「親日観の主な源は、ODAとアニメ」などといった認識は
浅薄にすぎると言えるのではないのでしょうか。

「日本人のIntegrityの自覚」が 青少年教育に生かされたエピソード

瀬下和夫氏 (元 明治大学ラグビー部 主将)

オーストラリア遠征の際に、次の訓示があったのです。

相手国の人たちは、お前たちを見て、
日本人は、こういう人たちだと判断する。
だから、その意味でも、お前たちは日本の代表なのだ。
決して、相手国の人に見られて、
恥ずかしいことがあってはならない！

こう言われて、私たちは、背筋が伸びました！！

日本ラグビー協会サイトには下記があります

インテグリティ追求に向けて

すべてのラグビー関係者（選手、指導者、スタッフ、協会職員等）にとって、コンプライアンスを遵守しインテグリティを追求することは、ラグビーを続けるために必要不可欠な要素になります。ラグビーの価値を高めるため、すべてのラグビー関

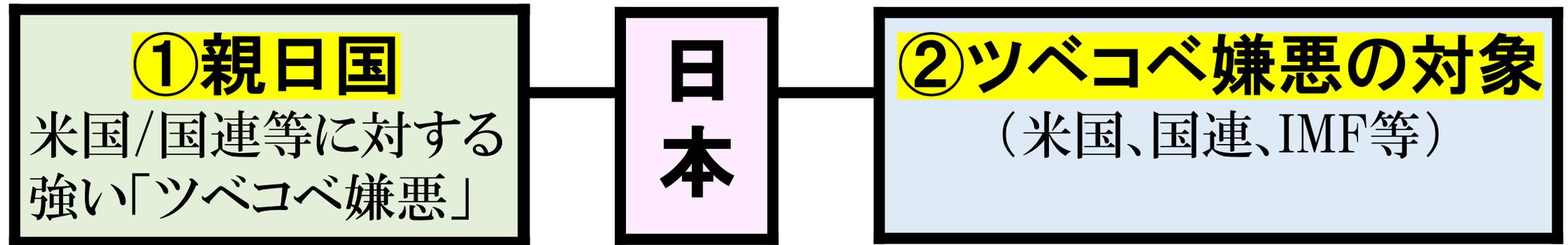
ラグビーの価値を高める5つの要素が「ラグビー憲章」の中で述べられています。



(2) **Advanced Bridging Diplomacy (ABD)**

「高度橋渡し外交」、あるいは「先進的橋渡し外交」

ABDが期待されるのは、次のような状況。



これは、実に、頻繁に見られる状況です
(日本は、①とも、②とも良い関係)

日本人が知るべき

日本以外の諸国における 「誇り高い」=「ツベコベ嫌悪」の実情

日本人が見逃しがちなので、
大いに注意を要する重要事項

ほとんど全ての国々は、
「ツベコベ嫌悪」が強い(=誇り高い)
場合により、「メンツは命より大事」

日本は例外。
だから、日本は、往々にして
他国の心情を理解できない！

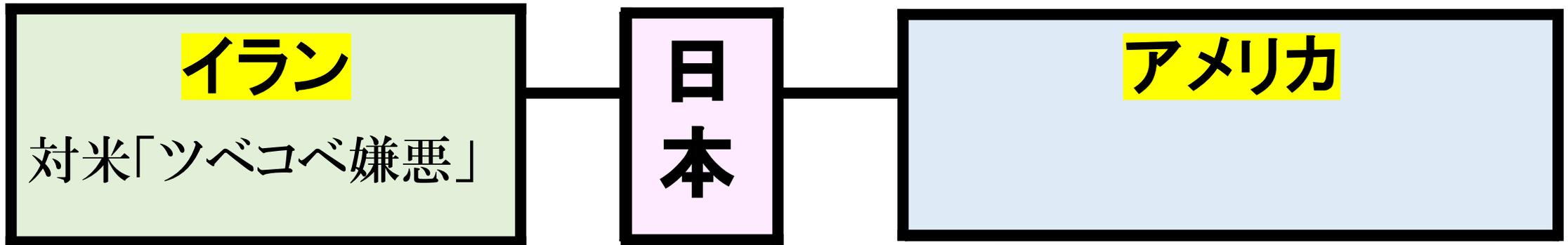
某防衛省事務次官が語る
安倍外交の神髄

安倍晋三首相は、
諸国の
ツベコベ嫌悪を
受け止めようとしていた

Advanced Bridging Diplomacy(ABD)

例1 イラン

イランは、伝統的な親日国(←日章丸事件)



2019/4、イランの核開発問題で情勢緊迫。
イラン・イスラム革命防衛隊が、英国貨物船を拿捕。
同月、米国は、イラン産原油の
主要国への輸出を事実上禁止。

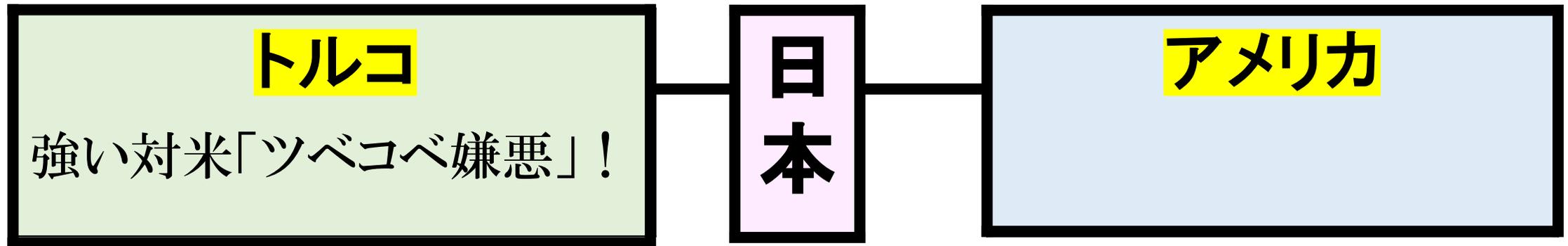
こうした時期でも、日本の安倍首相が訪問すると、
最高指導者ハメネイ師とローハニ大統領が大歓迎。



Advanced Bridging Diplomacy(ABD)

例2 トルコ

トルコは、伝統的な親日国(←エルトウルル事件ほか)



トルコは、NATOの発足からの加盟国。
そしてNATO内で米国に次ぐ軍事力。

しかし、トルコは2019年、ロシア製の
ミサイル防衛システムS-400を配備。



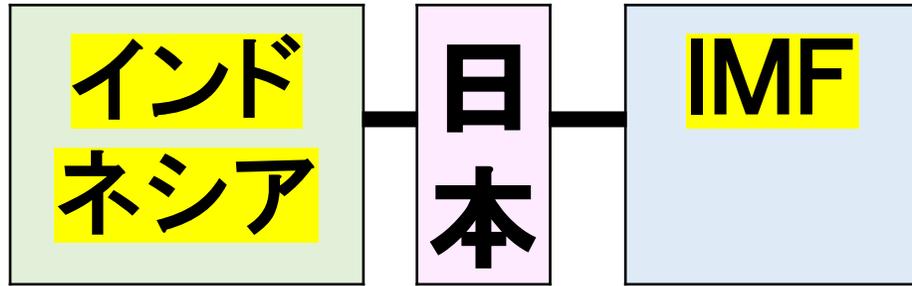
日本にできることはなかったか？

対米ツベコベ嫌悪に配慮することが、
世界平和に貢献することを、
アメリカに教えられるのはどの国か？

Advanced Bridging Diplomacy(ABD)

例3 インドネシア

インドネシアは、伝統的な親日国



1997年、アジア通貨危機に際し、署名するスハルト大統領を、IMFの専務理事が腕組みして見下ろす写真に、インドネシア国民は憤激しました。

「どっちなんだ、はっきりしろ、というのは、インドネシア人が最も嫌うことだ(佐藤百合「経済大国インドネシア」)



日本にできることはなかったかと、考えてみるくらいはしたいものです

ジャカルタで今年1月、国際通貨基金(IMF)のカムドシュ専務理事が腕組みをして見下ろす前で、経済構造改革策の確約書に署名するスハルト・インドネシア大統領。AFP時事



本講のまとめ

安全保障政策の一環として
「ソフトパワー研究」が望まれる

ソフトパワーの中核は親日観
ポーランド インドネシア
台湾 トルコ ベルギー
ベトナム フィンランド
パラオ スリランカ……

「知る努力、知らせる努力」

親日観をソフトパワーとして、
実務に生かすことが期待される

①「親日観の源」「日本のソフトパワーの源」として最も重要なのは、
日本人のIntegrity(徳性)

②海外諸国の「ツベコベ嫌悪」を受け止め、外交・安全保障に生かす
Advanced Bridging Diplomacy (ABD)が期待される。